

<ul style="list-style-type: none"> <li>朗読など機会をとらえて、漢字の読みに対する興味や関心を高めていく指導が大切であろう。</li> <li>辞書を積極的に利用していく態度・習慣を育てていく必要がある。</li> </ul>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>② 文字を書く</p> <p>一、漢字を正しく書く</p> <p>1.「解く」(40%)、2.「貧しい」(48%)、3.「準備」(43%)、4.「賛成」(69%)で、4問中3問は50%を下まわる正答率であった。誤答として多かったのは、次のようなものである。</p> <p>解く→解く、得く、問く、徳く 準備→順備、準構、順序</p> <p>誤答には、字形や点画のあやふやなもの、漢字の持つ意味に結びつかないあて字などが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を正しく使うようにさせるためには、漢字の意味と組み立てをはっきり習得させることが大切であろう。</li> <li>漢字の指導に当たっては、次の点に留意して指導する必要がある。</li> <li>漢字の意味や用法をはっきり理解させる。</li> <li>漢字のもつ意味と結びつけて、漢字の組み立てを理解させる。</li> <li>字形・点画・筆順の指導を徹底する。</li> </ul>
<p>二、送り仮名を正しく書く</p> <p>「必ず」「快よい」とした誤答が多い。</p> <p>1.「必ず」(58%)のほうが、2.「快い」(45%)より正答率が高い。これは、利用頻度が高いためであろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送り仮名の指導では、基本原則をしっかりと指導するとともに、特別な表記については、短文作りなどの作業を通して、徹底した指導をすることが大切であろう。</li> <li>漢字の練習をする場合なども、送り仮名までつけて練習させると効果的である。</li> </ul>
<p>三、仮名遣いを正しく書く</p> <p>仮名遣いの間違いを指摘する問題であるが、「おぼろづきよ」、「少しずつ」を誤りとしたものが多い。</p> <p>正答率は、53%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名遣いの原則をしっかりと身につけさせるとともに、例外的な表記については、事例に即し、短文作りの練習などを通して定着させる指導が大切であろう。</li> </ul>
<p>観点②(文字を書く)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を書く問題についての誤答の傾向をみると、読みが同じで、意味が異なる漢字を書いているものが多い。また字画の不正確なものも多くみられる。</li> <li>漢字の指導に当たっては、機械的に覚えさせるだけでなく、形・音・義を関連づけて指</li> </ul>	